

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社 ミキハウス
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 24年 10月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族の思いを十分に汲み取ったうえで、その方の個性や心身の状況など考慮し、出来るだけその人らしく生活できるよう、一人ひとりのペースに合わせた支援・ケアに努めている。不安や心配事を最小限にするために、一人ひとりの生活リズムを大事にすることで、笑顔の絶えない穏やかな生活が送って頂いていることなどが、その例である。また、自治会に加入し地域の行事に参加することで、広く当施設の存在を認識して頂き、災害時など緊急事態にも地域の方々に協力して頂ける環境づくりを行っている。一方、職員教育には施設側より全面的にバックアップし、各方面の研修に積極的に参加できる環境をつくり、各個人のレベルアップに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員育成の重要性を認識している施設長は、職員の経験や習熟度の段階に応じた学びの機会を確保している。認知症の理解や対応について、職員は日々研鑽を重ね、特に研修等には力を入れている事業所である。日々のコミュニケーションを大切にして温かく見守りながら、利用者が生きがいや楽しみを感じられるよう一人ひとりに合わせた支援をしている。利用者が地域とつながりを持って暮らせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)

氏 名 加藤 博

評価完了日 平成24年 10月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) スタッフ会において職員全員で話し合い、事業所独自の理念のもと、管理者並びに職員一同、業務にあたっている。なお、常に確認出来るよう、事務所に掲示している。	
			(外部評価) 地域とのつながりを大切にしながら、その人らしい自由で安全な暮らしができ、事業所が地域の一員として貢献することを踏まえた理念としている。理念を全ての原点として捉え、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事には、出来るだけ多くの利用者に参加して頂ける環境づくりをしている。また、地域のボランティアの方々とは絵手紙などを通し、交流を深めている。	
			(外部評価) 近隣の福祉施設とは、研修生の受け入れやイベントへの参加など普段から交流がある。誕生会には、地域のボランティアによるマンドリン演奏があり、利用者の楽しみになっている。自治会に入り地域から親しまれる事業所になるよう努力を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して、地域の方々と認知症に関する勉強会に参加して頂き、認知症に対する理解や、支援の仕方についてなど、アドバイスを言ったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、その内容をよく吟味したうえで、 利用者の近況報告、研修内容の報告、行事報告などを 行っている。出来るだけ多くの地域住民の方々に参加 して頂けるようお声かけをし、情報を交換し合うこと でサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議の参加メンバーの意見を元に議題を検討 している。利用者の現状を報告し理解を深めてもら い、課題について意見交換している。広く参加を呼び かけて介護相談員にも出席してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 行政とは運営推進会議などを通し、情報交換を行って いる。介護において、わからないことや困難なケース 等について相談し、アドバイスを受けている。	
			(外部評価) 事業所内だけでは解決しづらい課題等について、地域 包括支援センターや介護福祉課の職員に相談したり、 情報提供してもらうなど日常的に連携を取り、良好な 関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間においてのみ、防犯を目的とした施錠を行ってい るが、それ以外では身体拘束をしないケアを実践して いる。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、様々な研修や勉強会 で理解を深めている。玄関は20時から翌朝6時まで は安全のため施錠し、日中は職員が見守っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内での虐待が起きないように、常に職員同士がチェックし合い、その防止に努めている。また、高齢者虐待防止法等、外部研修などを通じ、職員が学ぶ機会を設け、スタッフ会での勉強会においても、職員全員が学べるよう、その場を提供している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、職員と共に、日常生活自立支援事業や成年後見制度など権利擁護に関する制度について、外部研修、スタッフ会で知識を深め、必要とされる人に対して活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、利用者・家族の思いを十分理解した上で、不安な点や疑問点を解消して頂けるよう、しっかりとした説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を通じ、必ず利用者の家族の方に参加して頂いた上で、要望・意見等を頂戴している。また、介護相談員の方を招き、日々の生活などの何気ない会話の中に利用者の思いを汲み取れるよう、努めている。	
			(外部評価) 家族会は年2回開催し、運営推進会議にも出席してもらい、些細なことでも職員に直接言える雰囲気がある。貴重な意見もあり、検討し運営に反映させるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月3回のスタッフ会を設け、職員が抱えているケアに対する課題や、改善点を出してもらい、その解決及び改善に努めている。 (外部評価) 施設長と管理者と職員は信頼関係ができており、意見や要望を言いやすい雰囲気がある。管理者は職員の心身が充実して良い介護ができると考えている。職員が改善して欲しいことは検討されて、働き易い職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) キャリアアップ支援制度等を利用して、各職員がスキルアップできる環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会が主催する研修にはシフトの調整などを行い、希望職員は必ず参加できるようにしている。また、資格取得の為に支援として、スクーリングや研修受講の為にシフト調整、休暇の付与などを実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各施設間で行われる勉強会に参加したり、相互研修によって学び得た意見や助言を参考にし、質の良い介護に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する前に、利用者本人と話をする時間を十分に設け、生活していく上での不安や要望等について把握し、安心して頂けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人の場合同様、家族に対しても話をする時間を十分に設け、その要望や不安なところを把握し、安心して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた場合、当施設が利用者本人にとって適切かどうかの判断や、他のサービス利用による支援についても、助言等行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の下ごしらえや洗濯物の片づけなど日常生活において必要なお手伝いをして頂くことで、職員もその工夫や知恵を教えて頂いている。また、共に暮らすという意識を職員が常に持ち、利用者の方々とも共有できる環境づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、本人と家族の架け橋となるよう、経験豊かな職員が対応し、その絆を大切にしている。また、家族の方からの相談には誠心誠意の対応を実践している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の方々との電話連絡などで、安心して過ごせる環境を提供している。お盆やお正月など、行事ごとに外出して頂き、家族水入らずの時間を楽しんで頂いている。 (外部評価) 家族関係の継続を大切に考えて、受診はなるべく家族に同行してもらい、関係が途切れないよう支援している。外泊もできる限り家族に受け入れてもらっている。利用者は近隣に住んでいた方が多く、地元の敬老会など地域との関係が途切れないように機会を多く作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者同士の言動・行動に常に目配りし、声かけなど支援やレクリエーションに参加して頂く事で、良好な関係を保てるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりが必要な方や家族の方には、サービス利用が終了しても相談や支援などを通して、その関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各利用者とのコミュニケーションを心がけ、その思いや意向が把握できるよう努め、サービス担当者会議の場で情報の提供・共有を行っている。本人からの把握が難しい時には家族の意見を伺い検討し、本人本位となるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は利用者1～2名を担当し、よく会話をするよう心がけて、困っていることや何をして欲しいのかなど希望や意向の把握に努め、職員間で共有し希望に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人・家族・担当ケアマネジャーからの情報を収集し、スタッフ会において、その情報提供を行っている。入居後も、本人や家族の方との談話などにより、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人らしく過ごして頂けるよう、その人に合ったライフスタイルになるように工夫をしている。また、変化が生じた時は、情報を共有し、現状に合った生活をして頂けるよう、努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日のスタッフ会において、各利用者の現状を把握し、介護計画の見直しを行っている。また、家族の方々には定期的に近況報告を行い、その意向を取り入れたプランニングを行っている。 (外部評価) 利用者や家族から意向や希望を聞き取り、職員の意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があった時は、即見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別対応表を作成し、各個人の日々の状態変化に努め、その情報を共有できるようにしている。また、水分摂取量・排泄状況・入浴状況などをチェックし、その気づきを記入。これを基に、日々のケアや介護計画の見直しに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 定期受診の際は、基本的に家族に依頼しているが、都合がつかない場合などは看護師が対応している。例えば義歯の状態が悪い時には、定期訪問時以外に個別に対応してもらい、一人ひとりが快適に過ごせる環境づくりを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々の生活を豊かにして頂けるよう、民生委員や介護相談員を始め、絵手紙・マンドリン演奏に来園されるボランティアの方々と交流して頂き、楽しんで頂けるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診の際は、基本的に家族に依頼しているが、都 合がつかない場合などは看護師が対応している。受診 時には、日頃の状況報告の提供を行い、適切な指示が 得られるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に沿ったかかりつけ医の受診 ができるように支援している。受診は家族が同行して いるが、定期的な受診は看護師が同行し、医師と情報 を共有している。眼科と歯科は定期的な往診がある。 定期的に採血するなど健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、体調変化時の報告は素 早く対応し、家人への状況報告、受診につなげてい る。看護師は、職員からの状況変化の報告をいつでも 受けれるよう24時間体制で臨んでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には看護サマリーで情報提供を行っている。様 子観察を兼ねての訪問を行い、病院との連携を図って いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家人に終末期の方針について充分に話し合い を行い、本人、家族の意向を第一に考え、施設ででき る範囲の説明を行い文書として共有し、本人、家族の 望まれる支援をしている。各個人の終末期のケアの対 応は主治医の指導の元に、家人の協力を得ながら、看 護師が職員への助言を行っている。	
			(外部評価) 入居時に看取りについて家族に説明し、事業所として できること、できないことを話して理解を得ている。 重度化して医療処置が必要な場合は、家族や職員、主 治医、看護師で連携して支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、随時急変時の対応等についての勉強会を実施し、意識づけを行っている。緊急時対応の研修には、新職員の参加に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎朝、避難経路に障害物がないか確認し、施設内及び周辺の整備・見廻りを行っている。また、トリアージを取り入れたマニュアルに従って、定期的な防災訓練を実施。各職員に意識づけを行っている。近くの事業所とも連携を図り、運営推進会議を通じ、実際に地域の方々にも参加して頂き、災害時の協力体制を築いている。 (外部評価) 運営推進会議に合わせて避難訓練を実施している。近隣の施設にも協力をお願いしている。災害時は、優先順位を決めて動ける人から運び出す方法（トリアージ）を取り入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩としての敬意を忘れず、丁寧な言葉かけにて対応している。サービス担当者会議にて、利用者個々の情報の共有を行い、各職員のケアが統一されるよう努めている。 (外部評価) 職員は常に利用者より目線を下げて話しかけるよう心がけ、さりげない対応の中にも利用者を尊重している気持ちがある。入浴や排泄の介助の場面では、特に誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話する際には、目線を常に合わせ、笑顔を忘れず、ゆっくりと話し、傾聴に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各職員が常に様子観察を行い、小さな変化でも見逃さないよう努めている。そして、その状況は、申し送り等を通じて情報を共有し、その時点における最良のケアを行えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に一度訪問理容の方が来られ、希望者を中心に散髪をして頂いている。外出の際には、職員と一緒に服を選んで髪を整え、その人らしいおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な料理の下ごしらえや、食器拭き・テーブル拭き等食事に携わって頂けるようなお手伝いを通じて、職員と利用者が一緒に楽しめるよう支援している。	
			(外部評価) 職員が献立を立てて、季節感のある食材を取り入れている。調理専門の職員がいるため、食事の時間は利用者への対応に専念できている。職員も同じ時間に同じものを一緒に頂いている。男性の利用者も協力的で、下ごしらえや配膳や下膳などできる人ができる時に無理なくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者ごとに食事量を調整している。また、食事摂取量が少ない時には、プリンや玉子豆腐など本人好みの代替品で補っている。水分摂取量にも常に注意し、少ない時には本人好みの味の飲み物を提供するなど、支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行うことで口腔内の清潔保持に努めている。拒否された場合には、時間を置いた後再度口腔ケアを勧めたり、職員が交代するなどして対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各利用者に合わせたトイレ誘導により、トイレ内での排泄及び排泄の自立支援に努めている。おむつは容易に使用せず、夜間においても、介助にて対応出来る利用者に対しては、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 病院を退院して入居するケースが増えてきているが、おむつ使用の方にトイレ誘導を重ねて、歩行してトイレに行けるようになった方もいる。自立にむけた排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因やそれによる体調変化に関する説明を看護師より受けており、体格に合わせた水分量の摂取に努めている。水分摂取量が少ない時には、本人好みの飲み物にて摂取を促すなど工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日を大まかに決定し、基本は本人の希望や体調を考慮した上で、楽しく快適に入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 入浴は基本的には週3回で、可能な限り利用者の希望に応じている。リフト浴もできる。入浴の苦手な利用者にもタイミングや声かけを工夫して、入浴が楽しい時間になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者のその日の状態に応じて随時声かけを行い、無理強いがなく、一人ひとりの生活リズムを大事にしたケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイル、個人の薬かごに薬の説明シートを添付することで、いつでも各職員がチェックできる体制をとっている。特に重要な薬に関しては、看護師よりスタッフ会において説明・指導など受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各利用者の力を活かせる役割、楽しみごとなど、気分転換できる環境づくりをしている。張り合いや歓びのある日々を過ごして頂けるよう、常に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日には、外気浴して頂けるよう、本人の体調も加味し支援している。季節に合わせ、花の鑑賞など外出をしたり、地域の催し物などにも積極的に参加し、地域の方々との交流にも努めている。	
			(外部評価) 周辺を散歩したり、明正寺の桜やマイントピアのしゃくやくの見学、ギャラリー鑑賞、喫茶店へ行くなど、利用者の希望に添った外出を支援している。車が3台あり、買い物や外食などの機会をできるだけ多く作るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持したいと希望される利用者には、一定額の金銭を持って頂き、それを職員が把握している。残金が少なくなった時には、家人からの預り金で補充を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居時に、本人・家族の方に電話や手紙など、自由にやり取りが出来る事を説明している。利用者からの要請がある時には、電話をかけ対話できる環境づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じて頂けるような折り紙などの飾りつけを行っている。また、利用者がゆっくりとできるよう、リビングを快適に保つよう努めている。	
			(外部評価) 広いテラスは日常的に日光浴や散歩などができ、利用者はゆったりと思いいの場所で過ごしている。芋炊きなどの行事にも利用されている。広い庭には野菜畑があり草花も植えられて、利用者は成長を楽しみにしている。自然を取り入れた居心地の良い空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールやテラスに長椅子などを設け、利用者同士がコミュニケーションを取り易い環境づくりをしている。また、どの場所にも自由に行き来できるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地良く過ごして頂けるよう、入居時に本人や家族の方と相談の上、本人馴染みの物品などを持参して頂き、快適な空間作りに努めている。	
			(外部評価) 居室には鏡台やテレビ、写真などを持ち込み、自作の絵や縫い物などを飾って、その人らしい安心して過ごしやすい空間になっている。掃除が行き届き清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 場所を確認出来るよう、目線に合わせた掲示物などで、安心して頂けるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社 ミキハウス
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 24年 10月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族の思いを十分に汲み取ったうえで、その方の個性や心身の状況など考慮し、出来るだけその人らしく生活できるよう、一人ひとりのペースに合わせた支援・ケアに努めている。不安や心配事を最小限にするために、一人ひとりの生活リズムを大事にすることで、笑顔の絶えない穏やかな生活が送って頂いていることなどが、その例である。また、自治会に加入し地域の行事に参加することで、広く当施設の存在を認識して頂き、災害時など緊急事態にも地域の方々に協力して頂ける環境づくりを行っている。一方、職員教育には施設側より全面的にバックアップし、各方面の研修に積極的に参加できる環境をつくり、各個人のレベルアップに努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員育成の重要性を認識している施設長は、職員の経験や習熟度の段階に応じた学びの機会を確保している。認知症の理解や対応について、職員は日々研鑽を重ね、特に研修等には力を入れている事業所である。日々のコミュニケーションを大切にして温かく見守りながら、利用者が生きがいや楽しみを感じられるよう一人ひとりに合わせた支援をしている。利用者が地域とつながりを持って暮らせるよう努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム しおさい

(ユニット名)

ユニット 2

記入者(管理者)

氏 名

青野 洋子

評価完了日

平成24 年 10月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) スタッフ会において職員全員で話し合い、事業所独自の理念のもと、管理者並びに職員一同、業務にあたっている。なお、常に確認出来るよう、事務所に掲示している。 (外部評価) 地域とのつながりを大切にしながら、その人らしい自由で安全な暮らしができ、事業所が地域の一員として貢献することを踏まえた理念としている。理念を全ての原点として捉え、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事には、出来るだけ多くの利用者に参加して頂ける環境づくりをしている。また、地域のボランティアの方々とは絵手紙などを通し、交流を深めている。 (外部評価) 近隣の福祉施設とは、研修生の受け入れやイベントへの参加など普段から交流がある。誕生会には、地域のボランティアによるマンドリン演奏があり、利用者の楽しみになっている。自治会に入り地域から親しまれる事業所になるよう努力を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して、地域の方々と認知症に関する勉強会に参加して頂き、認知症に対する理解や、支援の仕方についてなど、アドバイスを言ったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、その内容をよく吟味したうえで、 利用者の近況報告、研修内容の報告、行事報告などを 行っている。出来るだけ多くの地域住民の方々に参加 して頂けるようお声かけをし、情報を交換し合うこと でサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議の参加メンバーの意見を元に議題を検討 している。利用者の現状を報告し理解を深めてもら い、課題について意見交換している。広く参加を呼び かけて介護相談員にも出席してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 行政とは運営推進会議などを通し、情報交換を行って いる。介護において、わからないことや困難なケース 等について相談し、アドバイスを受けている。	
			(外部評価) 事業所内だけでは解決しづらい課題等について、地域 包括支援センターや介護福祉課の職員に相談したり、 情報提供してもらうなど日常的に連携を取り、良好な 関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間においてのみ、防犯を目的とした施錠を行って いるが、それ以外では身体拘束をしないケアを実践して いる。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、様々な研修や勉強会 で理解を深めている。玄関は20時から翌朝6時まで は安全のため施錠し、日中は職員が見守っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会にも積極的に出席したり、施設内での勉強会を開き、学んだことを職員同士で常に気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度などについて外部研修会・スタッフ会などでの勉強会で学ぶ機会を持ち、制度の理解と活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、利用者・家族の思いを十分理解した上で、不安な点や疑問点を解消して頂けるよう、しっかりとした説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を通じ、必ず利用者の家族の方に参加して頂いた上で、要望・意見等を頂戴している。また、介護相談員の方を招き、日々の生活などの何気ない会話の中に利用者の思いを汲み取れるよう、努めている。	
			(外部評価) 家族会は年2回開催し、運営推進会議にも出席してもらい、些細なことでも職員に直接言える雰囲気がある。貴重な意見もあり、検討し運営に反映させるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月3回のスタッフ会を設け、職員が抱えているケアに対する課題や、改善点を出してもらい、その解決及び改善に努めている。 (外部評価) 施設長と管理者と職員は信頼関係ができており、意見や要望を言いやすい雰囲気がある。管理者は職員の心身が充実して良い介護ができると考えている。職員が改善して欲しいことは検討されて、働き易い職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) キャリアアップ支援制度等を利用して、各職員がスキルアップできる環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会が主催する研修にはシフトの調整などを行い、希望職員は必ず参加できるようにしている。また、資格取得の為に支援として、スクーリングや研修受講の為にシフト調整、休暇の付与などを実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ケアマネ部会への参加や、各施設間で行われる勉強会に参加したり、相互研修によって学び得た意見や助言を参考にし、質の良い介護に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する前に、利用者や家族からの情報をもとに、利用者本人と十分に話をすることで、生活していく上で安心して頂けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人と同様に家族とも話をする時間を出来るだ け持ち、不安や要望を把握し、良い関係づくりに努め ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談を受けた場合、当施設が利用者本人にとって適切 かどうかの判断や、他のサービス利用による支援につ いても、助言等行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日常生活の中で料理の下ごしらえ、洗濯物干しなどの お手伝いを通し、色々な知恵・工夫を教えて頂いたり している。と共に、職員・利用者が一緒に生活してい る意識を持てる良い環境づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、本人と家族の架け橋となるよう、経験豊かな 職員が対応し、その絆を大切にしている。また、家族 の方からの相談には誠心誠意の対応を実践している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族・知人などと自由に電話連絡をされ、安心した生 活を送られている。また、季節ごとの行事を家族の方 と外出されるなど、楽しい時間を過ごして頂いてい る。 (外部評価) 家族関係の継続を大切に考えて、受診はなるべく家族 に同行してもらい、関係が途切れないよう支援してい る。外泊もできる限り家族に受け入れてもらってい る。利用者は近隣に住んでいた方が多く、地元の敬老 会など地域との関係が途切れないように機会を多く 作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の言動・行動を職員は常に把握して、利用者同士が良い関係を保てるように声かけを行ったり、レクリエーションに参加して頂けるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりが必要な方や家族の方には、サービス利用が終了しても相談や支援などを通して、その関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや意向を本人との談話の中で把握し、サービス担当者会議で情報の共有に努め、家族の方の意見も取り入れ、本人本位となるように検討している。	
			(外部評価) 職員は利用者1～2名を担当し、よく会話をするよう心がけて、困っていることや何をして欲しいのかなど希望や意向の把握に努め、職員間で共有し希望に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人・家族の方等からの情報をもとにスタッフ会にて情報の共有を行っている。また、面接時や入居後においても、引き続き情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人らしく過ごして頂けるよう個々の過ごし方を工夫したり、談話の中で変化が見られれば、すぐに情報の共有が行えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月行っているスタッフ会で、各入居者の現状報告を行い、介護計画の見直しを実施している。また、家族の近況報告を定期的に行い、意見を取り入れたプランを作成している。 (外部評価) 利用者や家族から意向や希望を聞き取り、職員の意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があった時は、即見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の申し送り表には、個々の状況・状態変化など記入し、記録担当者がファイルに記入。各シフト間で申し送りをし、情報を共有するように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 定期受診の際は、基本的に家族に依頼しているが、都合がつかない場合などは看護師が対応している。例えば義歯の状態が悪い時には、定期訪問時以外に個別に対応してもらい、一人ひとりが快適に過ごせる環境づくりを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々の生活を豊かにして頂けるよう、民生委員や介護相談員を始め、絵手紙・マンドリン演奏に来園されるボランティアの方々と交流して頂き、楽しんで頂けるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診の際は、基本的に家族に依頼しているが、都 合がつかない場合看護師が対応している。受診時に は、日頃の状況報告の提供を行い、適切な指示が得ら れるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に沿ったかかりつけ医の受診 ができるように支援している。受診は家族が同行して いるが、定期的な受診は看護師が同行し、医師と情報 を共有している。眼科と歯科は定期的な往診がある。 定期的に採血するなど健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、体調変化時の報告は素 早く対応し、家人への状況報告、受診につなげてい る。看護師は、職員からの状況変化の報告をいつでも 受けれるよう24時間体制で臨んでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には看護サマリーで情報提供を行っている。様 子観察を兼ねての訪問を行い、病院との連携を図って いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家人に終末期の方針について充分に話し合い を行い、本人、家族の意向を第一に考え、施設ででき る範囲の説明を行い文書として共有し、本人、家族の 望まれる支援をしている。各個人の終末期のケアの対 応は主治医の指導の元に、家人の協力を得ながら、看 護師が職員への助言を行っている。	
			(外部評価) 入居時に看取りについて家族に説明し、事業所として できること、できないことを話して理解を得ている。 重度化して医療処置が必要な場合は、家族や職員、主 治医、看護師で連携して支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、随時急変時の対応等についての勉強会を実施し、意識づけを行っている。緊急時対応の研修には、新職員の参加に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎朝、避難経路に障害物がないか確認し、施設内及び周辺の整備・見廻りを行っている。また、トリアージを取り入れたマニュアルに従って、定期的な防災訓練を実施。各職員に意識づけを行っている。近くの事業所とも連携を図り、運営推進会議を通じ、実際に地域の方々にも参加して頂き、災害時の協力体制を築いている。 (外部評価) 運営推進会議に合わせて避難訓練を実施している。近隣の施設にも協力をお願いしている。災害時は、優先順位を決めて動ける人から運び出す方法（トリアージ）を取り入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者本人の思いを大切にし、人生の先輩に対して丁寧な言葉かけをするよう努めている。 (外部評価) 職員は常に利用者より目線を下げて話しかけるよう心がけ、さりげない対応の中にも利用者を尊重している気持ちが伺える。入浴や排泄の介助の場面では、特に誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 低い位置にて目線を合わせ、笑顔でゆっくりと利用者本人の話を聞き、希望することを理解し、受け入れることができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 申し送りにて利用者の状況を共有し、常に様子観察を行い、その時々合った介護に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に一度、訪問理容の方が来られ、希望者には散髪をして頂いている。外出などの時は、職員と一緒に服を選んだり、髪を整えたり、おしゃれを楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下ごしらえの手伝いを通じて、その日のメニューの話をしている。料理の手順など職員が学ぶことも多い。後片付けの食器拭きも一緒にして下さっている。	
			(外部評価) 職員が献立を立てて、季節感のある食材を取り入れている。調理専門の職員がいるため、食事の時間は利用者への対応に専念できている。職員も同じ時間に同じものを一緒に頂いている。男性の利用者も協力的で、下ごしらえや配膳や下膳などできる人ができる時に無理なくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの好き嫌いを把握し、職員間で情報の共有をしている。それでも食べにくい時などは、代替品で摂取して頂いている。また食事量・水分量は、チェック表を用い、個々の利用者の状態を判断している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各入居者に合わせた口腔ケアを実施。口腔内を常に清潔に保てるよう努めている。また、訪問歯科診療を週に一度以上のペースで受けており、誤嚥性肺炎予防の為のアドバイスを頂いたり、歯科医師提供の含漱液にて口腔内の清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) おむつの使用は出来るだけ控え、その方にあったトイレ誘導を行ったり、排泄用品を使用することで自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 病院を退院して入居するケースが増えてきているが、おむつ使用の方にトイレ誘導を重ねて、歩行してトイレに行けるようになった方もいる。自立にむけた排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排泄状態を把握している。水分摂取量を常時記録し、少ない時は本人の好みの飲み物で水分補給に努めている。また、日課として散歩を取り入れ、運動による便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者本人の希望により、女性スタッフが良いとおっしゃる時には、入浴当番の男性スタッフと交代したり、散髪当日・外出前日などには臨機応変に入浴を勧めている。	
			(外部評価) 入浴は基本的には週3回で、可能な限り利用者の希望に応じている。リフト浴もできる。入浴の苦手な利用者にもタイミングや声かけを工夫して、入浴が楽しい時間になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人のペースに合わせ、例えば昼寝の声かけをするなど、自室で休んで頂くよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイル、個人の薬かごに薬の説明シートを添付することで、いつでも各職員がチェックできる体制をとっている。特に重要な薬に関しては、看護師よりスタッフ会において説明・指導など受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の希望によって、絵手紙教室に参加して頂いたり、新聞に俳句の投稿をして頂いたり、季節を感じて頂けるようドライブをして頂いたりするような支援を行っている。また、調理の下準備をしたり、洗濯物をたたんだり、各利用者に役割分担もして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近場での散歩を日課として取り入れ、健康維持の為に利用者の日々の状態に合わせて実施している。また、ドライブや他の行事での外出等は、計画を立て家族の方にも協力して頂いている。	
			(外部評価) 周辺を散歩したり、明正寺の桜やマイントピアのしゃくやくの見学、ギャラリー鑑賞、喫茶店へ行くなど、利用者の希望に添った外出を支援している。車が3台あり、買い物や外食などの機会をできるだけ多く作るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持したいと希望される利用者には、一定額の金銭を持って頂き、それを職員が把握している。残金が少なくなった時には、家人からの預り金で補充を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居時に、本人・家族の方に電話や手紙など、自由にやり取りが出来る事を説明している。利用者からの要請がある時には、電話をかけ対話できる環境づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を取り入れ、利用者の方々と一緒に楽しみながら作製している。また、季節の花や果物、野菜などは手に取って頂くなどして、五感を使い四季を感じて頂けるよう努めている。	
			(外部評価) 広いテラスは日常的に日光浴や散歩などができ、利用者はゆったりと思いいの場所で過ごしている。芋炊きなどの行事にも利用されている。広い庭には野菜畑があり草花も植えられて、利用者は成長を楽しみにしている。自然を取り入れた居心地の良い空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) コミュニケーションを取り易くする為に、テラス・ホールにベンチを設けたり、ホールにある畳スペースには冬にこたつ等を設け、ゆっくりとテレビを観たり、話が出来る環境づくりをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地良く過ごして頂けるよう、入居時に本人や家族の方と相談の上、本人馴染みの物品などを持参して頂き、快適な空間作りに努めている。	
			(外部評価) 居室には鏡台やテレビ、写真などを持ち込み、自作の絵や縫い物などを飾って、その人らしい安心して過ごしやすい空間になっている。掃除が行き届き清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 場所を確認出来るよう、目線に合わせた掲示物などで、安心して頂けるよう工夫している。	